

図1 デザイン思考のプロセス

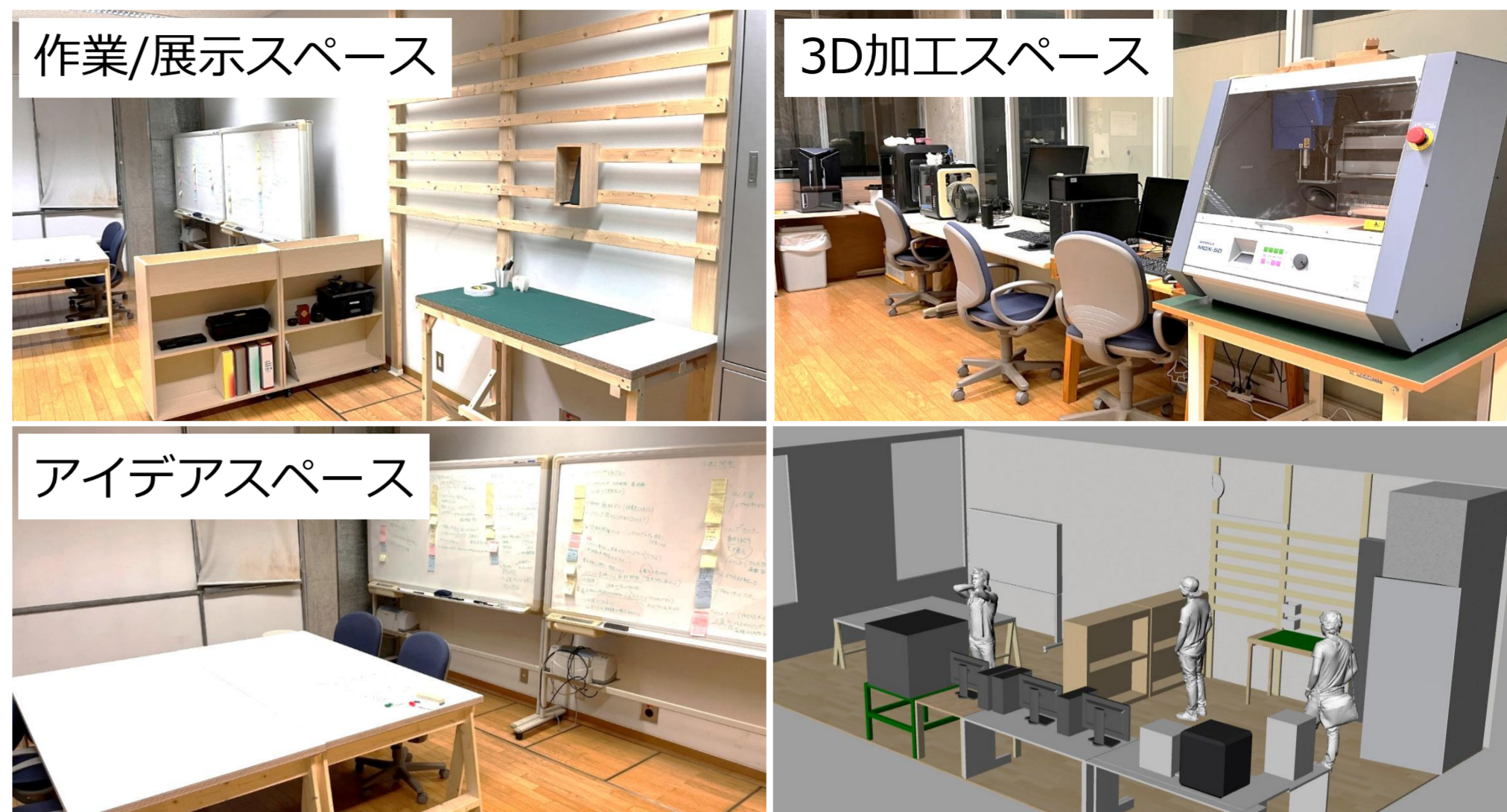


図3 3Dモデルによる検討と整備した魅せる研究室



図2 問題定義のブレストの様子



図4 魅せる研究室の見学会

背景・目的

企業の下請け脱却や自社製品開発のニーズが高まる中、アイデア発想のためにデザイン思考の活用が求められています。しかし、企業単体では、デザイン思考の活用ができていないことが多い状況です。本研究では、研究成果や技術を展示し、かつデザインの学習ができる「魅せる研究室」の創設を目的としました。

研究内容

デザイン思考のプロセスを辿り、魅せる研究室に必要な設備を検討しました(図1)。職員間でユーザーに共感するためにユーザーなりきりワークショップを行いました。また、問題定義とアイデア発想のために、ブレインストーミングをしました(図2)。3Dモデルを用いて家具や機器のサイズを検討し(図3)、お披露目会を開催しました(図4)。

結果・まとめ

デザイン思考を活用した結果、アイデア発想やデザイン学習のための「アイデアスペース」、アイデアの立体化や試作のための「3D加工スペース」、軽微な加工・成果PRのための「作業/展示スペース」を備えた『魅せる研究室』を創設しました。今後は、デザイン思考の普及に向けて活用、改良していく予定です。